

大学院文学研究科 科目履修の手引き

令和3年度
[2021年度]



大阪市立大学大学院
文学研究科

www.lit.osaka-cu.ac.jp

この『科目履修の手引き』は、2021年度入学者を対象とする。

2021年度入学者は、この『科目履修の手引き』を修了まで大切に
保管すること。

※在学中に変更することもあります。変更点は、学内サイトOCU UNIPA（下
記●参照）にて掲示するので常に確認すること。（ocu.jp/unipa）

（●参照）OCU UNIPA（オーシーユー ユニパ）について

学内利用者向けのシステムです。ログイン方法や利用については、別途配布してい
るマニュアルをご参照下さい。

ログインURL：ocu.jp/unipa

目 次

| | |
|--|----|
| 大阪市立大学文学研究科・文学部 学術憲章 | 2 |
| 大学院文学研究科 専門分野一覧 | 8 |
| 科目履修の手引き | |
| I 前期博士課程 | |
| 1. 学位 | 9 |
| 2. 前期博士課程を修了するための単位数 | 9 |
| 3. インターナショナルスクール授業科目 | 10 |
| 4. 成績評価および表示 | 11 |
| 5. 修士論文と学位 | 11 |
| 6. 教員免許 | 12 |
| 7. 学芸員資格 | 13 |
| 8. 専門社会調査士および社会調査士申請資格 | 13 |
| 9. 大学院共通教育科目について | 14 |
| 10. 科目履修の手続きと成績確認 | 14 |
| 11. 修業年限と在学年限など | 15 |
| 12. 修学支援制度と奨学金 | 16 |
| 13. 保険加入について | 17 |
| 14. 交通機関の運休、気象条件の悪化等による授業の休講 および定期試験の延期措置 | 17 |
| 15. 授業科目表 | 18 |
| II 後期博士課程 | |
| 1. 学位 | 27 |
| 2. 後期博士課程を修了するための単位数 | 27 |
| 3. 博士論文 | 27 |
| 4. 教員免許 | 28 |
| 5. 学芸員資格 | 29 |
| 6. 専門社会調査士および社会調査士申請資格 | 29 |
| 7. 大学院共通教育科目について | 29 |
| 8. 科目履修の手続き | 29 |
| 9. 修業年限と在学年限など | 30 |
| 10. 奨学金、奨励金等 | 31 |
| 11. 授業科目表 | 32 |
| Appendix | |
| 大阪市立大学大学院文学研究科履修規程 | 37 |
| 大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規 | 39 |
| 大阪市立大学大学院文学研究科長期履修学生規程 | 41 |

大阪市立大学文学研究科・文学部 学術憲章

制 定 2008年3月20日

最近改正 2020年1月24日

1. 前文

かつて本邦の大学は、高邁深淵なる真理の探究と知的エリートの育成を大学の社会的使命として誇らしげに掲げてきた。だが本学の前身大阪商科大学の創設（1928年3月16日）に際し、当時の大阪市長であった関一は「今や大阪市が市立商科大学を新に開校せんとするに当って、よく考えねばならぬ事は、単に専門学校の延長を以て甘んじてはならぬ事勿論であるが、又国立大学の「コピー」であってもならぬ。」と述べた上で、「其設立都市の有機組織と其都市の市民生活の内に市立大学が織込まれなければならない。」（「市立商科大学の前途に望む」）との卓見を披瀝している。大阪商科大学とその後身たる大阪市立大学がたどった歩みはまさに関一市長が示した市民に開かれた大学の理想を追求するものであった。この経緯に鑑みると、大阪市立大学に奉職しここに修学するわれわれは、学問的真理の探究と有為なる人材の育成に励むとともに、社会に開かれた大学の実現を真摯に追求することを以て建学以来の使命を果たしていきたいと考える。

わが文学研究科・文学部は人文科学および行動科学の分野においてこれまで学界をリードする研究を遂行し文化の進展に寄与するとともに、多くの優れた人材を世に送り出すことによって学界ならびに社会に大きな貢献を果たしてきたと自負するものである。しかしこの現状に安住することなく、さらに厳しく自己評価につとめると同時に、外部評価等の意見や要請を虚心に受け止め、たゆまぬ自己研鑽に資して行きたいと考える。学問的真理の探究、優れた人材の育成、そして社会に開かれた大学、これら崇高なる理想の実現をみずからに課した証として、ここに「大阪市立大学文学研究科・文学部学術憲章」を定める。

2. 文学研究科・文学部の理念

- ・ 人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象とそこに内在する普遍性を探究する。
- ・ 人間、社会、都市、文化をとりまく今日的課題の解決に貢献し得る人文科学・行動科学の構築をめざす。
- ・ 先端的研究成果をグローバルな視野から情報発信できる国際的競争力を備えた最高水準の教育・研究をめざす。

3. 人材育成の目標

【学士課程】

- ・ 人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成する。
- ・ コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成する。
- ・ 教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門性を身につけた人材を育成する。

[各学科]

(哲学歴史学科)

人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することのできる力をもった人材を育成する。

(人間行動学科)

人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることのできる人材を育成する。

(言語文化学科)

人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することのできる人材を育成する。

(文化構想学科)

文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践活動へと結びつけることのできる人材を育成する。

【大学院前期博士課程】

- ・ 人文科学や行動科学の分野において、先端的知識と方法を身につけ独創的研究をみずから行いうる人材を育成する。
- ・ 地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人を育成する。
- ・ 生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に対する深い理解を通して、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人を育成する。

【大学院後期博士課程】

- ・ 人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者を育成する。
- ・ 国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者を育成する。

[各専攻]

(哲学歴史学専攻)

人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とする。人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを目指す。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成する。

(人間行動学専攻)

人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉えることを目的とする。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視する。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材を養成する。

(言語文化学専攻)

言語にかかわる文化現象の全領域、すなわち、言語、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバリゼーションという21世紀にふさわしい教育研究を推進する。鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍しうる人材を養成する。

(文化構想学専攻)

さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材を養成する。

4. 学術研究の目標

- ・ 人文科学・行動科学の諸分野において最先端の研究を、公正を旨として推進し、新たな知の創造をめざす。
- ・ 人文科学・行動科学の知はたえず社会と関わり、社会からの具体的要請に真摯に向き合うことにより進展していくものであるとの認識に立ち、社会に開かれた人文科学・行動科学の確立をめざす。
- ・ 人文科学・行動科学の諸領域において確乎とした学問的基礎の上に立脚すると同時に、新たに出現する知の状況変化にも柔軟に即応し得る学際的研究をめざす。

5. 地域・社会貢献

- ・ 大学における高度な教育や研究それ自体は長期的観点からみると社会貢献の機能を果たしているが、同時にその成果を直接的に地域・社会に還元する必要がある旨、学校教育法で謳われている。文学研究科・文学部では、地域・社会貢献を大学の果たすべき第三の使命と位置づけ、推進する。
- ・ 文学研究科・文学部の教員による地域・社会貢献活動の実績を、教育・研究活動、国際交流活動の実績と並べて教員評価の指標とし、教員の積極的な活動を奨励する。

6. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

文学研究科・文学部は、人間、社会、文化、言語に関心を持つ人間性豊かな人材を育成することを目標としている。それに対応して、以下のような人材を求める。

【学士課程】

- ・ 人間の思考と社会・文化の生成発展について考えてみたい人
- ・ 人間行動の原理と社会のしくみについて考えてみたい人
- ・ さまざまな言語や文学・芸術について考えてみたい人
- ・ さまざまな文化的営みを社会のなかで活かす方法を考えてみたい人
- ・ 論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人

- * 入学者選抜の基本方針は、一般入試、編入学・学士入学、国際バカロレア入試、帰国生徒入試、私費外国人入試の各々において定める。

【大学院前期博士課程】

- ・ 人文科学・行動科学の専門領域に関する明確な問題意識と専門的知識を有する人
- ・ 社会的経験をふまえて人文科学・行動科学の専門領域の研究を志す人
- * 入学者選抜の基本方針は、一般選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜の各々において定める。

【大学院後期博士課程】

- ・ 人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な知識と独創的研究テーマを有する人
- ・ 研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を備えた人
- * 入学者選抜の基本方針は、一般選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜の各々において定める。

7. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【学士課程】

- ・ 人間の思考と社会・文化を根本的、原理的に問う哲学的観点と、それらの本質を時間軸における変化のなかに見出す歴史的観点とを補完的に培う。
- ・ 人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークなどの科学的手法に基づき解明する能力を培う。
- ・ さまざまな言語・文学・芸術を対象とし、それらを実証的、学際的に考察し、社会・文化事象に対する深い理解力、優れた言語運用能力や豊かな国際性を培う。
- ・ 新たな文化表現の創出、共生的文化の構築、文化資源の活用など、人間の文化的営みを社会のなかで実践的に活用できるような能力を培う。
- ・ 人文科学・行動科学の基礎となる原典、史料、文献などを調査・読解する能力を鍛え、批判的、創造的に問題に取り組む能力を培う。
- ・ 以上の目標を達成するため、文学部では次の6点を重視する。
 - ① 人文学の基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。
 - ② 初年次から最終年次までのすべての年次において、少人数による演習科目を配置する。
 - ③ 基本的な教養と学際的な視点を身につけるために、全学共通科目を4年間にわたって履修できること。
 - ④ 国際的な視野を獲得し、活躍する人材を養成するため、英語・新修外国語の修得を重視する。
 - ⑤ 専門分野の知識をさらに広く活用する能力を養うため「副専攻」制度を認める。
 - ⑥ 卒業論文は獲得した学修成果を最大限に生かしながら取り組むことができるように指導する。

【大学院前期博士課程】

- ・ 人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な専門的知識を培う。
- ・ 人文科学・行動科学の専門領域において明確な問題意識をもって研究を行える能力を培う。
- ・ 以上の目標を達成するため、文学研究科では次の4点を重視する。
 - ① 高度な知識と総合的な問題解決能力を身につけることを目標に、学生が所属する「研究分野」を考慮に入れた諸科目をバランスよく履修できるように、「専攻共通科目」と「分野専門科目」を配置する。

- ② 修士の学位論文の作成のため、指導教員等による「研究指導」を履修し、教員による助言を2年間にわたって受けるようにする。
- ③ 若手研究者として国際的に活躍できる能力を養うため「インターナショナルスクール授業科目」を用意する。
- ④ 全学に共通する大学院科目を修得単位として認定する。

【大学院後期博士課程】

- ・ 人文科学・行動科学の専門領域において深い学識にもとづき独創的な研究を行える能力を培う。
- ・ 研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を培う。
- ・ 若手研究者として国際的に活躍できる能力を養うための「インターナショナルスクール授業科目」について積極的な履修を勧め、全学に共通する大学院科目は修得単位として認定する。
- ・ 博士の学位論文の作成のため、指導教員等による「論文指導」を3年間にわたって履修し、教員による助言を継続的に受けるよう指導する。
- ・ 「論文指導」4単位修得後（通常2年次）の前期 Semester 開始時「博士論文作成計画書」を指導教授に提出することを義務づける。
- ・ 博士の学位論文については、3名の教員からなる審査委員会による審査を実施する。

8. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

【学士課程】

- ・ 上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで卒業論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学位が授与される。

【大学院前期博士課程】

- ・ 上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで修士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学位が授与される。

【大学院後期博士課程】

- ・ 上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで博士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学位が授与される。

9. 倫理綱領

（1）学問の自由

- ・ 学問の自由の下に、自らの専門的な判断と倫理観を持って真理を探究し、社会への責任を自覚したうえで、その行動基準を自律的に判断する。

（2）職務の公正・誠実な執行

- ・ すべての人間の基本的な人権と尊厳を認めてこれを侵さず、自然環境、資源の保護にも配慮する。
- ・ 教育・研究・社会貢献及び大学運営に関する責務を公正かつ誠実に遂行し、誇りを持って社会的責任を果たす。
- ・ 適正な手続きの下で責務を遂行し、不正のない大学の実現のために行動する。

（3）教育責任

- ・ 十分な準備と熱意を持って教育に臨み、学生の学習意欲を高めるとともに、学生の人格を尊重し、教育に関わる説明責任を果たす。
- ・ 教育能力の向上を目指して常に自己研鑽に努める。

(4) 研究活動の真摯な遂行

- ・ 学問の客観性を確保し、真摯に研究活動を行う。
- ・ 他の研究者の学問的成果を尊重する。
- ・ 研究に際して、研究対象者の人権、生命の尊厳、実験動物の福祉、自然環境を重んじる。
- ・ 研究費の獲得・執行を適正に行う。

(5) 地域・社会貢献

- ・ 社会との相互交流を図り積極的に協力を行うなかで、公正性を踏まえて、研究業績・教育経験を社会に還元する。

(6) 情報の適正な発信及び管理

- ・ 情報の適正な管理・保管・開示に努める。
- ・ 個人情報の保護に努める。
- ・ インターネットの使用に際して、不正利用や情報流出の防止に努める。

(7) 環境整備

- ・ 大学を人間形成の場と位置づけ、自ら関わる事項の説明責任を果たす。
- ・ 互いに人格を尊重し合い連携するなかで、あらゆる差別、セクシュアル・ハラスメント、アカデミックハラスメント等のない、学習・教育・研究・労働のための安全で健康な環境を整備する。

大学院文学研究科・専門分野一覧

| 課 程 | 専 攻 | 専 門 分 野 |
|-------------|-------|---------------|
| 前 期 博士課程 | 哲学歴史学 | 哲 学 |
| | | 日 本 史 学 |
| | | 東 洋 史 学 |
| | | 西 洋 史 学 |
| | 人間行動学 | 社 会 学 |
| | | 心 理 学 |
| | | 教 育 学 |
| | | 地 理 学 |
| | 言語文化学 | 国 語 国 文 学 |
| | | 中 国 語 中 国 文 学 |
| | | 英 語 英 米 文 学 |
| | | ド イ ツ 語 |
| | | フ ラ ン ス 語 |
| | | 圏 言 語 文 化 学 |
| | 文化構想学 | 言 語 応 用 学 |
| | | 表 現 文 化 学 |
| | | ア ジ ア 文 化 学 |
| | | |

| 課 程 | 専 攻 | 専 門 分 野 |
|-------------|-------|---------------|
| 後 期 博士課程 | 哲学歴史学 | 哲 学 |
| | | 日 本 史 学 |
| | | 東 洋 史 学 |
| | | 西 洋 史 学 |
| | 人間行動学 | 社 会 学 |
| | | 心 理 学 |
| | | 教 育 学 |
| | | 地 理 学 |
| | 言語文化学 | 国 語 国 文 学 |
| | | 中 国 語 中 国 文 学 |
| | | 英 語 英 米 文 学 |
| | | ド イ ツ 語 |
| | | フ ラ ン ス 語 |
| | | 圏 言 語 文 化 学 |
| | 文化構想学 | 言 語 応 用 学 |
| | | 表 現 文 化 学 |
| | | ア ジ ア 文 化 学 |
| | | |

I 前期博士課程

1. 学位

大阪市立大学院文学研究科前期博士課程の大学院生は、2年以上在学し、次表により30単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。

これを満たした者は、修了を認定され、「大阪市立大学修士（文学）」の学位が授与される。

2. 前期博士課程を修了するための単位数

前期博士課程を修了するためには、以下の通り、専攻共通科目2単位または4単位以上と、専攻の分野専門科目をあわせて26単位以上、これに修士論文の作成のために第2年次前期・後期に履修する研究指導をあわせ、30単位以上を履修しなければならない（15. 授業科目表を参照）。

科目の履修にあたっては、各専門分野のガイダンスでの指導に従うこと。

このほか研究科共通科目としてインターナショナルスクール授業科目があるが、その履修、および修得科目の修了要件単位としての扱いについては後述する。

| 専攻 | (1) 専攻 共通科目 (必修) | (2)各専攻・分野専門科目 | | (3) 研究指導科目 (必修) | 修士論文 (必修) |
|----------|---|--------------------------|---------------------|-----------------------|--------------|
| | | 専門分野の 総合研究Ⅰ・Ⅱ (必修) | 総合研究以外の 科目(選択科目) | | |
| 哲学歴史学 | 2単位 # | 4単位 | 20単位以上* | 4単位 | 0単位 |
| 人間行動学 | 4単位 #※ | 4単位 | 18単位以上* | 4単位 | 0単位 |
| 言語文化学 | 4単位 #※ | 4単位 | 18単位以上* | 4単位 | 0単位 |
| 文化構想学 | 4単位 b | 4単位 | 18単位以上* | 4単位 | 0単位 |
| 修了に必要な単位 | 合計 30単位以上 | | | | |
| 付記条件 | <p>*他専攻の分野専門科目は、4単位以内であれば「総合研究以外の科目（選択科目）」に含めることができる。</p> <p>#アカデミック・コミュニケーション演習Ⅰ、同Ⅱ（大学院共通教育科目）は、「専攻共通科目」の単位に含めることができる。「専攻共通科目」の必要単位数を超えて履修した場合は、「総合研究以外の科目（選択科目）」に含めることができる。</p> <p>※人間行動学、言語文化学の各専攻については、文学研究科共通科目「インターナショナルスクール授業科目」（25頁参照）の2単位まで「専攻共通科目」に含めることができる。2単位を超えて履修した場合は、「総合研究以外の科目（選択科目）」に含めることができる。「専攻共通科目」の必要単位を修得している場合、4単位までを「総合研究以外の科目（選択科目）」に含めることができる。</p> <p>b文化構想学専攻については、主とする専門分野（専修）の「専攻共通科目」提供の2単位を含めること。</p> | | | | |

(1) 専攻共通科目

それぞれの専攻の専攻共通科目の履修は必修である。文化構想学専攻については、主とする専門分野（専修）の「専攻共通科目」2単位を含めること。

(2) 分野専門科目

必修である専門分野（専修）の「総合研究Ⅰ」「同Ⅱ」4単位を含め、それぞれの専攻の分野専門科目を履修しなければならない。なお、他専攻の「分野専門科目」について、4単位を越えない範囲で修了要件単位に含めることができる。ただし、他専攻の共通科目は、修了要件の「分野専門科目」に含めることはできない。

(3) 研究指導科目

修士論文作成のための指導を内容とするもので、2年次に履修する。また、「研究指導Ⅱ」は「修士論文」の合格をもって2単位を修得するものとする。したがって、第2年次に修士論文を提出しなかった場合、また不合格となった場合は、翌年も引き続き修士論文作成の指導を受けるとともに、翌年次後期に研究指導Ⅱを科目登録し、修士論文を提出しなければならない。

(4) 科目ナンバー

2016年度より、大阪市立大学で開講されているすべての科目に9桁のアルファベットおよび数字によるナンバーづけ（ナンバリング）が行われている。文学研究科の前期博士課程の科目に関するナンバリングの基本的な考え方は以下の通りである。なお、学部の科目や教職科目等については学部の『科目履修の手引き』などを参照のこと。

①最初のアルファベット2桁は、科目の提供主体である文学研究科と専攻を意味するLA（哲学歴史学専攻）・LB（人間行動学専攻）・LC（言語文化学専攻）・LE（文化構想学専攻）とし、研究科共通科目はLXとする。

②3～5桁目のアルファベットは専修（ないしは専門分野）を表す。

- ・哲学歴史学専攻：哲学＝PHL、日本史＝JPH、東洋史学＝WHE、西洋史学＝WHW
- ・人間行動学専攻：社会学＝SOC、心理学＝PSY、教育学＝EDU、地理学＝GEO
- ・言語文化学専攻：国語国文学＝JPN、中国語中国文学＝CHN、英米言語文化＝ENG、ドイツ語圏言語文化領域＝DFD、フランス語圏言語文化領域＝DFF、言語応用＝LNG
- ・文化構想学専攻：表現文化学＝ART、アジア文化学＝ASA、文化資源学＝CRS

③6桁目は、学修マップ上の位置づけを、以下の3段階で表示する。

専攻共通科目＝1

分野専門科目＝2

研究指導科目＝3

④7桁目は、標準履修年次の最小学年を表す。具体的には、M1＝5、M2＝6とする。

⑤8～9桁目は科目特定番号であり、科目表の配列順になっている。

(5) その他

研究科教授会は、教育上有益と認めるときは、学生が他の研究科、国内の他の大学の大学院ならびに外国の大学の大学院の授業科目を履修することを認めることがある。

これにより修得した単位数については、10単位を超えない範囲で、これを本研究科当該専攻において修得したものとみなし、修了要件単位に含めることができる。

これを希望する者は、指導教員と相談すること。

ただしデータ関連人材育成プログラム受講科目については、修了要件単位には含まない。

3. インターナショナルスクール授業科目（26頁参照）

インターナショナルスクール授業科目は、大学院生を中心とする若手研究者が国際的に活躍

することを支援するために開設された研究科共通科目で、集中講義形式で毎年1科目提供される。（「比較文化交流論Ⅰ・Ⅱ」、「国際都市文化論Ⅰ・Ⅱ」、「国際都市社会論Ⅰ・Ⅱ」のうちの一つ。開講される科目は年度により異なる。）英語による授業と受講生の英語でのディスカッションを通じて、国際的な研究教育を推進することを目的に、毎年9月に実施している。

これら「比較文化交流論Ⅰ・Ⅱ」、「国際都市文化論Ⅰ・Ⅱ」、「国際都市社会論Ⅰ・Ⅱ」の単位については、文化構想学専攻を除き、4単位まで修了要件単位に含めることができる。

① 人間行動学、言語文化学の各専攻については、上記「インターナショナルスクール授業科目」のうち2単位まで「専攻共通科目」に含めることができる。2単位を超えて履修した場合は、「総合研究以外の科目（選択科目）」に含めることができる。「専攻共通科目」の必要単位を修得している場合、4単位までを「総合研究以外の科目（選択科目）」に含めることができる。

② 哲学歴史学専攻については、当科目を「専攻共通科目」に含めることはできない。ただし4単位までを「総合研究以外の科目（選択科目）」に含めることができる。

インターナショナルスクール授業科目は、大学院前期博士課程におけるそれぞれの専門分野の履修とは別に、英語による発信能力育成を趣旨とするものであるため、修了要件の単位数のためではなく、自分の専門分野における必要性を考慮し、積極的に履修することが望まれる。

4. 成績評価および表示

定期試験等による成績は、100点満点で60点以上を合格とし単位を認定する（『文学部履修規程』第11条第3項）。成績通知には合格科目をAA・A・B・Cで表示し、不合格科目はFで表示する。AA～Fの区分は100点満点で、次の通りである。

AA：100点～90点、A：89点～80点、B：79点～70点、C：69点～60点、F：59点以下

5. 修士論文と学位

（1）研究指導を通じた修士論文作成

必修科目である「研究指導Ⅰ・Ⅱ」は、修士論文作成のため教員から指導を受ける科目である。修士論文は、専門分野（専修）の「研究指導Ⅰ・Ⅱ」を履修し、作成するものとする。

修士論文を提出しようとする年度の前期に修士論文と「研究指導Ⅰ」、後期に「研究指導Ⅱ」の履修登録をしなければならない。

（2）修士論文の要件

- ① 修士論文は、当該専門分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。
- ② （評価基準）修士論文は以下の各項目について、当該専門分野における十分な水準を満たさなければならない。
 - (a) 研究課題（テーマ）の学術的意義…明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。
 - (b) 研究課題の的確性…研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。
 - (c) 研究方法の妥当性…研究を遂行する上で、適切な研究手法が用いられていること。
 - (d) 先行研究との関連…当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。
 - (e) 資料利用の適切性…論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切に用いられていること。

- (f) 論旨の一貫性…論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。
 - (g) 学術論文としての体裁…表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。
 - (h) 研究倫理の遵守…研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。
- ③ (論文の体裁) 修士論文は、論を展開する上で、各専門分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

(3) 提出期日および締切時間

修士論文は1月10日正午までに学生サポートセンター文学研究科教務担当に提出しなければならない。ただし10日が土・日あるいは祝日にあたる場合は、次の平日を締め切り日とする。提出期日および締切時間に遅れた場合、原則として受理しない。

提出の際、仮製本した論文1部のほか、申請書1部、履歴書1部を、学生サポートセンター文学研究科教務担当に提出すること。

なお、文学研究科前期博士課程においては、9月修了の制度はない。

(4) 成績評価

修士論文の成績評価は、提出された修士論文の審査と、その内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は各専門分野(各専修・専攻)から通知する。

「研究指導Ⅱ」の単位認定は、修士論文の単位が認定されたことをもって行う。したがって、修士論文が不合格になった場合は、「研究指導Ⅱ」の単位も認定されない。

合格した修士論文は製本し、本学の学術情報総合センターで保管する。

(5) 学位

修了に必要な単位を、修士論文を含めてこれを満たした者は、教授会の審議を経て修了を認定し、「大阪市立大学修士(文学)」の学位が授与される。

6. 教員免許

(1) 専修免許状の取得

専門分野と同一科目の教育職員一種免許状(中学・高校)をもっていれば、所定の大学院前期博士課程科目の単位を修得することにより、より専門性の高い教育職員免許状である「専修免許状」を取得することができる。

専修免許状は、修士の学位をもつことを基礎資格とし、所定の単位等を修得後、授与申請を行うことにより取得できる。所定の条件は以下のとおりである。

①取得しようとする専修免許状と同一の校種・教科の一種免許状を取得していること。

または、同一の校種・教科の一種免許状取得に必要な科目の単位を修得していること。

②各専攻提供の専修免許状に必要な科目を、24単位以上修得すること。免許教科(免許に記載できる専門分野)に必要な科目は、別に指示するので、履修登録締切日までに学生サポートセンター文学研究科教務担当において確認すること。

文学研究科では、原則的に、専門分野に対応している教科の教育職員一種免許状(中学・高校)を取得済みであれば、自分の専門分野の前期博士課程修了に必要な単位の中で専修免許状を取得できるようにカリキュラムが組まれている。「専修免許」のために独自の科目を履修する必要はない。「専修免許状」の取得を希望する者は、大学で取りまとめて、大阪府教育委員会に一括申請する。一括申請の手続きは、掲示及びOCU UNIPA学生掲示板への掲載により指示する。なお、免許状は修了式の日に交付する。

「専修免許状」は、課程修了後、住所地等の都道府県教育委員会に申請手続き方法を確認して、個人で申請することもできる。

なお、一種免許状取得に必要な科目の単位を複数の大学で修得している者で一種免許状と同時に専修免許状を取得しようとしている者は、一種免許状、専修免許状とも個人申請となる。

(2) 一種免許状の取得

教育職員一種免許状（中学・高校）をもっていない大学院前期博士課程学生は、専修免許状取得の前提となる一種免許状取得のための不足単位を、学部科目の履修により補うことができる。

大阪市立大学以外の大学において既修得単位があり、学部科目の履修により不足単位を補おうとする者は、必ず教員免許状の授与権者である都道府県教育委員会にも相談して、履修しなければならない科目を明確にして履修すること。なお、一種免許状のみの申請、あるいは、一種免許状取得に必要な科目の単位を、複数の大学で修得している者は、免許状取得条件が整った後に、各自で住所地等の都道府県教育委員会に申請すること。

履修できる学部科目は、教職課程と博物館学芸員課程をあわせて各学期8科目以内であるが、大学院生の学部科目の履修にあたっては、各学期の最初に、所定の手続き（学部科目受講願）を経て文学研究科教授会での許可、他学部教授会の許可を得なければならない。なお、学部科目受講願の提出は、指導教員（未定の場合は専修代表）の指導を前提としているので、早めに指導教員（または専修代表）との相談を始めておくこと。

全く教職課程を履修したことがなく、大学院前期博士課程への進学を機に免許状の取得を希望する者は、学生サポートセンター教育推進課教務・教職担当及び文学研究科教務担当に年度当初に申し出て、指導を受けること。

なお、教職課程の履修については、別に配布する手引きを参照すること。入学年度により履修方法等が異なる場合があるので、留意すること。

7. 学芸員資格

大学院生が学部で開講している〈博物館に関する科目〉を履修し、単位修得することにより、博物館学芸員の資格を取得することができる。詳しくは、学部の「履修の手引き」を参考にすること。

履修できる学部科目は、他の資格取得のために履修する学部科目と合わせ各学期8科目以内であるが、大学院生の学部科目の履修にあたっては、文学研究科教授会の許可を得なければならない。なお、学部科目受講願の提出は、指導教員（未定の場合は専修代表）の指導を前提としているので、早めに指導教員（または専修代表）との相談を始めておくこと。

8. 専門社会調査士および社会調査士申請資格

人間行動学専攻の大学院前期博士課程学生で、すでに社会調査士の資格を有する者は、以下の表に示されている専門社会調査士関連科目を履修し、単位修得することによって、専門社会調査士申請資格を取得することができる。

同専攻の大学院前期博士課程学生で、まだ社会調査士の資格を有していない者は、学部開講の社会調査士関連科目（G科目を除く）と以下の表の専門社会調査士関連科目を併せて履修・単位修得することにより、社会調査士と専門社会調査士の同時申請資格を取得することができる。

履修できる学部科目は、他の資格取得のために履修する学部科目と合わせ各学期8科目以内であるが、大学院生の学部科目の履修にあたっては、文学研究科教授会の許可を得なければならない。なお、学部科目受講願の提出は、指導教員（未定の場合は専修代表）の指導を前提としているので、早めに指導教員（または専修代表）との相談を始めておくこと。

専門社会調査士および社会調査士関連科目一覧

大学院前期博士課程

| 「専門社会調査士」関連科目 | 社会調査士資格の標準カリキュラム |
|---------------|------------------------|
| 社会学特殊問題研究演習 3 | 【H】調査企画・設計に関する演習（実習）科目 |
| 社会学特殊問題研究Ⅱ | 【I】多変量解析に関する演習（実習）科目 |
| 社会学特殊問題研究Ⅰ | 【J】質的調査法に関する演習（実習）科目 |

学部専門課程

| 「社会調査士」関連科目 | 社会調査士資格の標準カリキュラム |
|---------------------------|------------------------|
| 社会学研究法Ⅰ | 【A】社会調査の基本的事項に関する科目 |
| 社会調査法・心理学研究法Ⅰ・Ⅱ | 【B】調査設計と実施方法に関する科目 |
| 人間行動学データ解析法Ⅰ | 【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目 |
| 人間行動学データ解析法Ⅱ | 【D】社会調査に必要な統計学に関する科目 |
| 社会学データ解析法 人間行動学データ解析法Ⅲ | 【E】量的データ解析の方法に関する科目 |
| 社会学研究法Ⅱ | 【F】質的な分析の方法に関する科目 |
| 社会学実習Ⅰ・Ⅱ | 【G】社会調査の実習を中心とする科目 |

※【E】と【F】は、どちらかを選択

※年度によって科目が異なることがあるので、社会学専修代表に問いあわせること。

9. 大学院共通教育科目について

全研究科の大学院生が履修可能な大学院共通教育科目として「研究倫理」などが開講されている。「アカデミック・コミュニケーション演習Ⅰ」「同Ⅱ」は、文化構想学専攻を除き、「専攻共通科目」の単位に含めることができる。「専攻共通科目」の必要単位数を超えて履修した場合は、「総合研究以外の科目（選択科目）」に含めることができる。前期博士課程を修了するための単位数には含まれないが、修得単位として認定する。本科目については、大学院共通教育科目シラバスを参照のこと（OCU UNIPAにも掲載される）。

大学院共通教育科目の履修登録については、別途周知する。

10. 科目履修の手続きと成績確認

成績開示および履修登録スケジュールは、掲示板およびOCU UNIPAへの掲載により周知する。

(1) OCU UNIPAによる履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで（4月上旬・9月中旬）にOCU UNIPAより、履修する科目の登録をしなければならない。

※OCU UNIPAの操作方法等の詳細は「OCU UNIPA操作マニュアル」を熟読すること。

(2) 登録上の諸注意

履修しようとする科目が集中講義である場合、時間割表の最終頁で確認すること。集中講義の履修登録は、前期開講科目については、前期履修登録期間、後期開講科目については、後期履修登録期間に登録しなければならない。

修士論文についても履修登録が必要である。これは、前期履修登録期間に登録すること。

(3) 履修申請の確認と確定

履修登録締切後の履修登録状況確認日に、OCU UNIPAの「学生時間割表」画面より登録内容を点検し、正しく登録されていることを確認すること。この確認を怠り、希望する科目

履修が正確に登録されていない場合は、その科目の履修を認めない。特に、エラーが出ている科目については放置することなく、必ずエラー内容を確認し、履修登録確認・修正期間に修正すること。

(4) 休学した学生が復学した場合

休学した学生が履修・登録期間最終日を過ぎて復学した場合には、履修登録確認・修正期間中にOCU UNIPAより履修登録をすること。なお、履修登録確認・修正期間最終日を過ぎて復学した場合には、すみやかに学生サポートセンター文学研究科教務担当へ申し出ること。ただし、復学の時期によっては履修登録ができない場合がある。

(5) 成績確認

前学期に履修受験した科目の成績については、OCU UNIPAの「成績照会」画面によって確認できる。成績開示日に、自分の単位修得状況を確認し、それをもとに新学期の履修登録を行うこと。

※「成績照会」画面には前回の開講期までの成績がすべて反映されており、印刷も可能である。

(6) 成績異議申立制度

発表された成績評価について、次に該当する場合に限り異議を申し立てることができる。

①成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの

②シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から、明らかに逸脱した評価であると思われるもの

申立をする者は、成績開示日から原則として3日以内に、所定の手続きに基づいて、学生サポートセンター文学研究科教務担当へ申し出ること（手続きの詳細はサポートセンターで確認のこと）。異議申立書の様式は、異議申立期間にOCU UNIPAに掲載する。

なお、これは単に成績評価に納得がいかない者が、問い合わせ、あるいは異議申立を行う制度ではないので、注意すること。

(7) その他

「学校において予防すべき感染症」に罹患し出席停止措置の対象になった学生に対しては、出席停止期間に実施されたすべての授業について、欠席扱いとしない。また、出席停止期間に実施されたすべての科目の試験について、追試験を実施する。

いずれの場合も、罹患した時点で「「学校において予防すべき感染症」罹患証明書」と「出席停止措置による欠席科目報告書」を提出すること。

1.1. 修業年限と在学年限など

(1) 修業年限と在学年限

必要な単位数を修得し修了するまでの修業年限は2年である。修了に必要な単位数を修得することができない場合、留年となる。またその場合、修了までの在学年限は4年である。

在学年限内に必要な単位が修得できない場合、退学となる。なお、退学に際しては「退学願」の提出が必要であり、未提出の場合は除籍となる。

(2) 休学

病気その他やむをえない理由で2ヶ月以上学修できない場合は、休学することができる。一度に願い出ることのできる休学期間は原則最大で6ヶ月である。

休学を願い出る時は、学生サポートセンター文学研究科教務担当に申し出て、その指示を受けること。休学は本人と指導教員および学生担当委員との面談、「休学願」の提出により、教授会で審議され決定される。

なお、「休学願」の提出は、緊急の場合を除いて、前期は3月末日、後期は9月末日までに行わなければならない。

学期開始後に提出した場合は、その学期の授業料を納入しなければならない。

「休学願」は授業料が未納の場合は受理されない。

休学を延長する場合も、上記と同様の手続きをおこなったうえで3月末日または9月末日までに改めて、「休学願」を提出しなければならない。休学期間は、通算して2年を超えることができない。休学期間は在学年数に算入しない。

また、当該学年には、休学期間を除き12ヶ月以上在籍しなければならない。学年進行の時期は、4月とする。

(3) 復学

休学期間中にその事由が消滅したときには、願い出て復学することができる。復学後の履修については、学生サポートセンター文学研究科教務担当の指示を受けること。

休学期間終了までに申し出がない限り、終了翌日に復学するものとみなす。したがって、復学した学期の授業料を納入しなければならない。

(4) 退学

退学を希望する場合は、学生サポートセンター文学研究科教務担当に申し出て、その指示を受けること。退学は本人と指導教員および学生担当委員との面談、「退学願」の提出により、教授会で審議され決定される。

なお、「退学願」の提出は、緊急の場合を除いて、前期をもって退学する場合は9月末日、後期をもって退学する場合は3月末日までに行わなければならない。

学期開始後に提出した場合は、その学期の授業料を納入しなければならない。「退学願」は授業料未納の場合は受理されない。

(5) 除籍

年度内に授業料を納入しなかった場合、あるいは在学年限内に必要な単位を修得できない場合で「退学願」の提出のないときは除籍となる。

(6) 再入学

退学または除籍となった者が、再入学を願い出たときには、教授会の議を経て許可することがある。ただし、再入学の願い出は、退学または除籍の日から3年以内に限る。ただし、再入学には、授業料、入学料が必要となり、許可された場合は、退学時、除籍時の在学年限を引き継ぐ。

(7) 長期履修学生制度

修業年限を延長して長期履修を希望する大学院生は、所定の条件を満たした場合、認められることがある。これについては、「大阪市立大学長期履修制度規程」(41～42頁)を参照のこと。長期履修学生の履修登録の方法は、別途周知する。

長期履修学生には、原則として教職課程や博物館学芸員課程等の科目の履修を認めない。履修を希望する場合、指導教員と相談のうえ、教授会での承認を得ること。長期履修許可後に履修期間を延長することは認めない(再申請不可)。履修期間の短縮を希望する場合は、事前に学生サポートセンター文学研究科教務担当に相談すること。

1.2. 修学支援制度と奨学金

(1) 府の授業料等支援制度

授業料は、前期分が5月下旬ごろ、後期分が10月下旬ごろに指定の銀行口座から引き落とされる。家庭の事情その他の理由で、支払いの困難な者は府の授業料等支援制度の申請ができる。詳細はOCU UNIPAなどで周知するので、掲示に注意をして、申請書類を提出すること。

※国の「高等教育支援制度」は学部学生のみ対象となる。

(2) 奨学金

奨学金については、(1)日本学生支援機構奨学金、(2)本学独自の奨学金、(3)公的団体や民間団体の奨学金（各種奨学金）がある。詳細については、大阪市立大学公式サイト「経済的支援制度」https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/education/financial_aidを参照のこと。

1 3. 保険加入について

大学院生は、学生教育研究災害傷害保険・付帯賠償責任保険あるいはそれと同等の保険に必ず加入すること。保険に加入していない場合、履修できない科目がある。詳しくは「文学研究科・文学部における保険加入の注意事項」を確認すること。

1 4. 交通機関の運休、気象条件の悪化等による授業の休講および定期試験の延期措置

(1) 交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関の①または②のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）を行った場合の授業は原則として休講とする（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部又は一部の授業を行う。また、運休の有無にかかわらず別段の決定を行うことがある。

●杉本キャンパス

- ① JR阪和線全線
- ② Osaka Metro御堂筋線全線およびJR大阪環状線全線が同時

(2) 気象条件の悪化による授業の休講について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報（すべて対象とする）のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とする（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開・警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行う。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがある。

(3) 遠隔授業（同時双方向型に限る）においてWebClassが停止した場合の休講について*

WebClassが停止した場合は同時双方向型の授業に限り、原則として休講とする（授業担当教員から履修者へ個別の連絡がある場合は除く）。ただし、別表のとおりWebClassの復旧の時刻により、全部又は一部の授業を行う。また、遠隔授業（オンデマンド型）については休講の措置を行わない。

*文学研究科授業科目については必ず担当教員の指示を仰ぐこと。

（別表）

●杉本キャンパス

| 運行再開・警報解除・WebClass復旧の時間 | 休講となる時限 | 授業を行う時限 |
|---------------------------------|---------|---------|
| 午前7時以前 | | 全時限 |
| 午前10時以前 | 1・2時限 | 3・4・5時限 |
| 午前10時を過ぎても運行再開・警報解除されない、復旧しない場合 | 全時限 | |

※交通機関の運休とは、事故、気象現象、地震、交通ストライキ、その他の理由により交通機関が運行休止になり、通学が困難な場合をいう。

※授業中または試験中に、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から授業は休講とする。

15. 授業科目表

| 哲学歴史学専攻 | | | | |
|--------------------|-------------|-----|-------|-----------|
| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 備考 | 科目ナンバー |
| 専攻共通科目 | 人間文化学研究Ⅰ | 2 | | LAGEN1501 |
| | 人間文化学研究Ⅱ | 2 | | LAGEN1502 |
| 【分野専門科目】 哲学分野 | 哲学研究 | 2 | | LAPHL2501 |
| | 哲学研究演習 | 2 | | LAPHL2502 |
| | 西洋哲学史研究 | 2 | | LAPHL2503 |
| | 西洋哲学史研究演習 | 2 | | LAPHL2504 |
| | 倫理学研究 | 2 | | LAPHL2505 |
| | 倫理学研究演習 | 2 | | LAPHL2506 |
| | 美学研究 | 2 | | LAPHL2507 |
| | 美学研究演習 | 2 | | LAPHL2508 |
| | 論理学・科学哲学研究Ⅰ | 2 | | LAPHL2511 |
| | 論理学・科学哲学研究Ⅱ | 2 | | LAPHL2512 |
| | 宗教学研究 | 2 | | LAPHL2509 |
| | 宗教学研究演習 | 2 | | LAPHL2510 |
| | 哲学総合研究Ⅰ | 2 | | LAPHL2513 |
| | 哲学総合研究Ⅱ | 2 | | LAPHL2514 |
| 哲学研究指導科目 | 哲学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LAPHL3601 |
| | 哲学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LAPHL3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 日本史学分野 | 日本史学研究Ⅰ | 2 | | LAJPH2501 |
| | 日本史学研究演習1 | 2 | | LAJPH2502 |
| | 日本史学研究Ⅱ | 2 | | LAJPH2503 |
| | 日本史学研究演習2 | 2 | | LAJPH2504 |
| | 日本史学研究Ⅲ | 2 | | LAJPH2505 |
| | 日本史学研究演習3 | 2 | | LAJPH2506 |
| | 日本史学研究Ⅳ | 2 | | LAJPH2507 |
| | 日本史学研究演習4 | 2 | | LAJPH2508 |
| | 日本史学研究Ⅴ | 2 | | LAJPH2509 |
| | 日本史学研究Ⅵ | 2 | | LAJPH2510 |
| | 考古学研究 | 2 | | LAJPH2511 |
| | 考古学研究演習 | 2 | | LAJPH2512 |
| | 日本史学総合研究Ⅰ | 2 | | LAJPH2513 |
| | 日本史学総合研究Ⅱ | 2 | | LAJPH2514 |
| 日本史学研究指導科目 | 日本史学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LAJPH3601 |
| | 日本史学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LAJPH3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |

| | | | | |
|--------------------|-----------|---|-------|-----------|
| 【分野専門科目】 東洋史学分野 | 東洋史学研究Ⅰ | 2 | | LAWHE2501 |
| | 東洋史学研究演習1 | 2 | | LAWHE2502 |
| | 東洋史学研究Ⅱ | 2 | | LAWHE2503 |
| | 東洋史学研究演習2 | 2 | | LAWHE2504 |
| | 東洋史学研究Ⅲ | 2 | | LAWHE2505 |
| | 東洋史学研究演習3 | 2 | | LAWHE2506 |
| | 東洋史学研究Ⅳ | 2 | | LAWHE2507 |
| | 東洋史学研究演習4 | 2 | | LAWHE2508 |
| | 世界史学研究 | 2 | | LAGEM2501 |
| | 世界史学研究演習 | 2 | | LAGEM2502 |
| | 東洋史学研究Ⅴ | 2 | | LAWHE2509 |
| | 東洋史学研究Ⅵ | 2 | | LAWHE2510 |
| | 東洋史学総合研究Ⅰ | 2 | | LAWHE2511 |
| | 東洋史学総合研究Ⅱ | 2 | | LAWHE2512 |
| 東洋史学 研究指導科目 | 東洋史学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LAWHE3601 |
| | 東洋史学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LAWHE3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 西洋史学分野 | 西洋史学研究Ⅰ | 2 | | LAWHW2503 |
| | 西洋史学研究演習1 | 2 | | LAWHW2504 |
| | 西洋史学研究Ⅱ | 2 | | LAWHW2505 |
| | 西洋史学研究演習2 | 2 | | LAWHW2506 |
| | 西洋史学研究Ⅲ | 2 | | LAWHW2507 |
| | 西洋史学研究演習3 | 2 | | LAWHW2508 |
| | 西洋史学研究Ⅳ | 2 | | LAWHW2509 |
| | 西洋史学研究演習4 | 2 | | LAWHW2510 |
| | 西洋史学研究Ⅴ | 2 | | LAWHW2511 |
| | 西洋史学研究Ⅵ | 2 | | LAWHW2512 |
| | 西洋史学総合研究Ⅰ | 2 | | LAWHW2513 |
| | 西洋史学総合研究Ⅱ | 2 | | LAWHW2514 |
| 西洋史学 研究指導科目 | 西洋史学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LAWHW3601 |
| | 西洋史学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LAWHW3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |

履修方法及び課程修了要件

- ①専攻の共通科目・分野専門科目から26単位以上(専攻共通科目2単位以上、当該専門分野の総合研究4単位を含めること。他専攻の分野専門科目を4単位まで含めることができる。)、及び当該専門分野の研究指導科目4単位、合計30単位以上を修得すること。
- ②必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び試験に合格すること。

| 人間行動学専攻 | | | | |
|-------------------|--------------|-----|-------|-----------|
| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 備考 | 科目ナンバー |
| 専攻共通科目 | 人間行動学研究Ⅰ | 2 | | LBGEN1501 |
| | 人間行動学研究Ⅱ | 2 | | LBGEN1502 |
| | 人間行動学研究Ⅲ | 2 | | LBGEN1503 |
| | 人間行動学研究Ⅳ | 2 | | LBGEN1504 |
| 【分野専門科目】 社会学分野 | 社会学基礎問題研究Ⅰ | 2 | | LBSOC2501 |
| | 社会学基礎問題研究演習1 | 2 | | LBSOC2502 |
| | 社会学基礎問題研究Ⅱ | 2 | | LBSOC2503 |
| | 社会学基礎問題研究演習2 | 2 | | LBSOC2504 |
| | 社会学特殊問題研究Ⅰ | 2 | | LBSOC2505 |
| | 社会学特殊問題研究演習1 | 2 | | LBSOC2506 |
| | 社会学特殊問題研究Ⅱ | 2 | | LBSOC2507 |
| | 社会学特殊問題研究演習2 | 2 | | LBSOC2508 |
| | 社会学特殊問題研究Ⅲ | 2 | | LBSOC2509 |
| | 社会学特殊問題研究演習3 | 2 | | LBSOC2510 |
| | 社会学特殊問題研究Ⅳ | 2 | | LBSOC2511 |
| | 社会学特殊問題研究Ⅴ | 2 | | LBSOC2512 |
| | 社会学総合研究Ⅰ | 2 | | LBSOC2513 |
| | 社会学総合研究Ⅱ | 2 | | LBSOC2514 |
| 社会学 研究指導科目 | 社会学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LBSOC3601 |
| | 社会学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LBSOC3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 心理学分野 | 心理学基礎問題研究 | 2 | | LBPSY2501 |
| | 心理学基礎問題研究演習 | 2 | | LBPSY2502 |
| | 実験心理学研究 | 2 | | LBPSY2503 |
| | 実験心理学研究演習 | 2 | | LBPSY2504 |
| | 心理学特殊問題研究Ⅰ | 2 | | LBPSY2505 |
| | 心理学特殊問題研究演習1 | 2 | | LBPSY2506 |
| | 心理学特殊問題研究Ⅱ | 2 | | LBPSY2507 |
| | 心理学特殊問題研究演習2 | 2 | | LBPSY2508 |
| | 心理学特殊問題研究Ⅲ | 2 | | LBPSY2509 |
| | 心理学特殊問題研究Ⅳ | 2 | | LBPSY2510 |
| | 心理学総合研究Ⅰ | 2 | | LBPSY2511 |
| | 心理学総合研究Ⅱ | 2 | | LBPSY2512 |
| 心理学 研究指導科目 | 心理学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LBPSY3601 |
| | 心理学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LBPSY3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |

| | | | | |
|-------------------|----------------|---|-------|-----------|
| 【分野専門科目】 教育学分野 | 教育学基礎問題研究 | 2 | | LBEDU2501 |
| | 教育学基礎問題研究演習 | 2 | | LBEDU2502 |
| | 学校教育学研究Ⅰ | 2 | | LBEDU2503 |
| | 学校教育学研究演習1 | 2 | | LBEDU2504 |
| | 学校教育学研究Ⅱ | 2 | | LBEDU2505 |
| | 学校教育学研究演習2 | 2 | | LBEDU2506 |
| | 教育学特殊問題研究Ⅰ | 2 | | LBEDU2507 |
| | 教育学特殊問題研究演習1 | 2 | | LBEDU2508 |
| | 教育学特殊問題研究Ⅱ | 2 | | LBEDU2509 |
| | 教育学特殊問題研究演習2 | 2 | | LBEDU2510 |
| | 教育学総合研究Ⅰ | 2 | | LBEDU2511 |
| | 教育学総合研究Ⅱ | 2 | | LBEDU2512 |
| 教育学 研究指導科目 | 教育学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LBEDU3601 |
| | 教育学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LBEDU3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 地理学分野 | 地理学基礎問題研究 | 2 | | LBGEO2501 |
| | 地理学基礎問題研究演習 | 2 | | LBGEO2502 |
| | 地理情報論研究 | 2 | | LBGEO2503 |
| | 地理情報論研究演習 | 2 | | LBGEO2504 |
| | 人文地理学特殊問題研究Ⅰ | 2 | | LBGEO2505 |
| | 人文地理学特殊問題研究演習1 | 2 | | LBGEO2506 |
| | 人文地理学特殊問題研究Ⅱ | 2 | | LBGEO2507 |
| | 人文地理学特殊問題研究演習2 | 2 | | LBGEO2508 |
| | 人文地理学特殊問題研究Ⅲ | 2 | | LBGEO2509 |
| | 人文地理学特殊問題研究演習3 | 2 | | LBGEO2510 |
| | 地理学総合研究Ⅰ | 2 | | LBGEO2511 |
| | 地理学総合研究Ⅱ | 2 | | LBGEO2512 |
| 地理学 研究指導科目 | 地理学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LBGEO3601 |
| | 地理学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LBGEO3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |

履修方法及び課程修了要件

- ①専攻の共通科目・分野専門科目から26単位以上(専攻共通科目4単位以上、当該専門分野の総合研究4単位を含めること。他専攻の分野専門科目を4単位まで含めることができる。)、及び当該専門分野の研究指導科目4単位、合計30単位以上を修得すること。
- ②必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び試験に合格すること。

| 言語文化学専攻 | | | | |
|---------------------------|--------------|-----|-------|-----------|
| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 備考 | 科目ナンバー |
| 専攻共通科目 | 言語文化学研究Ⅰ | 2 | | LCGEN1501 |
| | 言語文化学研究Ⅱ | 2 | | LCGEN1502 |
| | 言語文化学研究Ⅲ | 2 | | LCGEN1503 |
| | 言語文化学研究Ⅳ | 2 | | LCGEN1504 |
| 【分野専門科目】 国語国文学分野 | 国文学研究Ⅰ | 2 | | LCJPN2501 |
| | 国文学研究演習1 | 2 | | LCJPN2502 |
| | 国文学研究Ⅱ | 2 | | LCJPN2503 |
| | 国文学研究演習2 | 2 | | LCJPN2504 |
| | 国文学研究Ⅲ | 2 | | LCJPN2505 |
| | 国文学研究演習3 | 2 | | LCJPN2506 |
| | 国文学研究Ⅳ | 2 | | LCJPN2507 |
| | 国文学研究演習4 | 2 | | LCJPN2508 |
| | 国語学研究 | 2 | | LCJPN2509 |
| | 国語学研究演習 | 2 | | LCJPN2510 |
| | 国語国文学研究 | 2 | | LCJPN2511 |
| | 国語国文学研究演習 | 2 | | LCJPN2512 |
| | 国語国文学総合研究Ⅰ | 2 | | LCJPN2513 |
| | 国語国文学総合研究Ⅱ | 2 | | LCJPN2514 |
| 国語国文学 研究指導科目 | 国語国文学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LCJPN3601 |
| | 国語国文学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LCJPN3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 中国語中国文学 分野 | 中国文学研究 | 2 | | LCCHN2501 |
| | 中国文学研究演習 | 2 | | LCCHN2502 |
| | 中国語学研究 | 2 | | LCCHN2505 |
| | 中国語学研究演習 | 2 | | LCCHN2506 |
| | 中国文化学研究 | 2 | | LCCHN2503 |
| | 中国文化学研究演習 | 2 | | LCCHN2504 |
| | 中国文献文化学研究Ⅰ | 2 | | LCCHN2507 |
| | 中国文献文化学研究演習1 | 2 | | LCCHN2508 |
| | 中国文献文化学研究Ⅱ | 2 | | LCCHN2509 |
| | 中国語応用研究 | 2 | | LCCHN2510 |
| | 中国語中国文学総合研究Ⅰ | 2 | | LCCHN2511 |
| | 中国語中国文学総合研究Ⅱ | 2 | | LCCHN2512 |
| 中国語中国文学 研究指導科目 | 中国語中国文学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LCCHN3601 |
| | 中国語中国文学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LCCHN3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |

| | | | | |
|---------------------------------------|-------------------|---|-----------|-----------|
| 【分野専門科目】 英語英米文学 分野 | 英文学研究Ⅰ | 2 | | LCENG2501 |
| | 英文学研究演習1 | 2 | | LCENG2502 |
| | 英文学研究Ⅱ | 2 | | LCENG2503 |
| | 英文学研究演習2 | 2 | | LCENG2504 |
| | 英文学研究Ⅲ | 2 | | LCENG2505 |
| | 英文学研究演習3 | 2 | | LCENG2506 |
| | 米文学研究 | 2 | | LCENG2507 |
| | 米文学研究演習 | 2 | | LCENG2508 |
| | 英米文化学研究 | 2 | | LCENG2509 |
| | 英米文化学研究演習 | 2 | | LCENG2510 |
| | 英語学研究Ⅰ | 2 | | LCENG2511 |
| | 英語学研究演習1 | 2 | | LCENG2512 |
| | 英語学研究Ⅱ | 2 | | LCENG2513 |
| | 英語学研究演習2 | 2 | | LCENG2514 |
| | 英米言語文化論 | 2 | | LCENG2515 |
| | 英語英米文学総合研究Ⅰ | 2 | | LCENG2516 |
| | 英語英米文学総合研究Ⅱ | 2 | | LCENG2517 |
| 英語英米文学 研究指導科目 | 英語英米文学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LCENG3601 |
| | 英語英米文学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LCENG3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 ドイツ語フランス語圏 言語文化学 分野 | ドイツ語フランス語圏言語文化研究Ⅰ | 2 | | LCDFX2501 |
| | ドイツ語フランス語圏言語文化研究Ⅱ | 2 | | LCDFX2502 |
| | ドイツ語圏文学研究Ⅰ | 2 | | LCDFD2501 |
| | ドイツ語圏文学研究演習1 | 2 | | LCDFD2502 |
| | ドイツ語圏文学研究Ⅱ | 2 | | LCDFD2503 |
| | ドイツ語圏文学研究演習2 | 2 | | LCDFD2504 |
| | ドイツ語圏文化学研究 | 2 | | LCDFD2505 |
| | ドイツ語圏文化学研究演習 | 2 | | LCDFD2506 |
| | ドイツ語学研究 | 2 | | LCDFD2507 |
| | ドイツ語学研究演習 | 2 | | LCDFD2508 |
| | フランス語圏文学研究 | 2 | | LCDFD2501 |
| | フランス語圏文学研究演習 | 2 | | LCDFD2502 |
| | フランス語圏文化学研究 | 2 | | LCDFD2503 |
| | フランス語圏文化学研究演習 | 2 | | LCDFD2504 |
| | フランス語学研究 | 2 | | LCDFD2505 |
| | フランス語学研究演習 | 2 | | LCDFD2506 |
| | フランス語圏言語文化論Ⅰ | 2 | | LCDFD2507 |
| | フランス語圏言語文化論Ⅱ | 2 | | LCDFD2508 |
| | ヨーロッパ言語文化学研究 | 2 | | LCDFX2503 |
| 多文化学研究 | 2 | | LCDFX2504 | |

| | | | | |
|-------------------------------|----------------------|---|-------|-----------|
| | 地域社会文化学研究Ⅰ | 2 | | LCDFX2505 |
| | 地域社会文化学研究Ⅱ | 2 | | LCDFX2506 |
| | ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅰ | 2 | | LCDFX2507 |
| | ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅱ | 2 | | LCDFX2508 |
| ドイツ語フランス語圏 言語文化学 研究指導科目 | ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LCDFX3601 |
| | ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LCDFX3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 言語応用学 分 野 | 言語応用学研究Ⅰ | 2 | | LCLNG2501 |
| | 言語応用学研究演習1 | 2 | | LCLNG2502 |
| | 言語応用学研究Ⅱ | 2 | | LCLNG2503 |
| | 言語応用学研究演習2 | 2 | | LCLNG2504 |
| | 言語応用学研究Ⅲ | 2 | | LCLNG2505 |
| | 言語応用学研究演習3 | 2 | | LCLNG2506 |
| | 言語応用学研究Ⅳ | 2 | | LCLNG2507 |
| | 言語応用学研究演習4 | 2 | | LCLNG2508 |
| | 言語応用学総合研究Ⅰ | 2 | | LCLNG2509 |
| | 言語応用学総合研究Ⅱ | 2 | | LCLNG2510 |
| 言語応用学 研究指導科目 | 言語応用学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LCLNG3601 |
| | 言語応用学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LCLNG3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |

履修方法及び課程修了要件

- ①専攻の共通科目・分野専門科目から26単位以上(専攻共通科目4単位以上、当該専門分野の総合研究4単位を含めること。他専攻の分野専門科目を4単位まで含めることができる。)、及び当該専門分野の研究指導科目4単位、合計30単位以上を修得すること。
- ②必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び試験に合格すること。

| 文化構想学専攻 | | | | |
|--------------------------|-----------------|-----|-----|-----------|
| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 備 考 | 科目ナンバー |
| 専 攻 共 通 科 目 | 文化構想学研究a(表現文化) | 2 | | LEGEN1501 |
| | 文化構想学研究b(アジア文化) | 2 | | LEGEN1502 |
| | 文化構想学研究c(文化資源) | 2 | | LEGEN1503 |
| 【分野専門科目】 表現文化学 分 野 | テキスト文化論研究 | 2 | | LEART2501 |
| | テキスト文化論研究演習 | 2 | | LEART2502 |
| | 表象文化構造論研究 | 2 | | LEART2507 |
| | 表象文化構造論研究演習 | 2 | | LEART2508 |
| | ポピュラー文化論研究 | 2 | | LEART2505 |
| | ポピュラー文化論研究演習 | 2 | | LEART2506 |
| | 比較表現論研究 | 2 | | LEART2503 |
| | 比較表現論研究演習 | 2 | | LEART2504 |
| | 表現文化学特別講義a | 2 | | LEART2509 |
| | 表現文化学特別講義b | 2 | | LEART2510 |

| | | | | |
|--------------------------|----------------|---|-----------|-----------|
| | 表現文化学総合研究Ⅰ | 2 | | LEART2511 |
| | 表現文化学総合研究Ⅱ | 2 | | LEART2512 |
| 表現文化学 研究指導科目 | 表現文化学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LEART3601 |
| | 表現文化学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LEART3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 アジア文化学 分野 | アジア文化構想学研究演習 | 2 | | LEASA2501 |
| | アジア地域文化創造論研究 | 2 | | LEASA2502 |
| | アジア地域文化創造論研究演習 | 2 | | LEASA2503 |
| | アジア共生文化政策論研究 | 2 | | LEASA2504 |
| | アジア共生文化政策論研究演習 | 2 | | LEASA2505 |
| | アジア比較文化実践論研究 | 2 | | LEASA2506 |
| | アジア比較文化実践論研究演習 | 2 | | LEASA2507 |
| | アジア文化学特別講義a | 2 | | LEASA2508 |
| | アジア文化学特別講義b | 2 | | LEASA2509 |
| | アジア文化学総合研究Ⅰ | 2 | | LEASA2510 |
| | アジア文化学総合研究Ⅱ | 2 | | LEASA2511 |
| アジア文化学 研究指導科目 | アジア文化学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LEASA3601 |
| | アジア文化学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LEASA3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |
| 【分野専門科目】 文化資源学 分野 | 国際文化資源論研究 | 2 | | LECRS2501 |
| | 国際文化資源論研究演習 | 2 | | LECRS2502 |
| | 芸術文化資源論研究 | 2 | | LECRS2503 |
| | 芸術文化資源論研究演習 | 2 | | LECRS2504 |
| | 観光文化資源論研究 | 2 | | LECRS2505 |
| | 観光文化資源論研究演習 | 2 | | LECRS2506 |
| | 社会実践文化資源論研究 | 2 | | LECRS2507 |
| | 社会実践文化資源論研究演習 | 2 | | LECRS2508 |
| | 文化資源学特別講義 a | 2 | | LECRS2509 |
| | 文化資源学特別講義 b | 2 | | LECRS2510 |
| | 文化資源学総合研究Ⅰ | 2 | | LECRS2511 |
| 文化資源学総合研究Ⅱ | 2 | | LECRS2512 | |
| 文化資源学 研究指導科目 | 文化資源学研究指導Ⅰ | 2 | 2年次科目 | LECRS3601 |
| | 文化資源学研究指導Ⅱ | 2 | 2年次科目 | LECRS3602 |
| 修士論文 | 修士論文 | 0 | 2年次科目 | |

履修方法及び課程修了要件

- ①専攻の共通科目・分野専門科目から26単位以上(主とする分野の専攻共通科目2単位、他分野の専攻共通科目2単位以上、当該専門分野の総合研究4単位を含めること。他専攻の分野専門科目を4単位まで含めることができる。)、及び当該専門分野の研究指導科目4単位、合計30単位以上を修得すること。
- ②必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び試験に合格すること。

前期博士課程大学院文学研究科共通科目

| 授業科目名 | 前期博士課程 | |
|----------|--------|-----------|
| | 単位数 | 科目ナンバー |
| 比較文化交流論Ⅰ | 2 | LXGEN2501 |
| 比較文化交流論Ⅱ | 2 | LXGEN2502 |
| 国際都市文化論Ⅰ | 2 | LXGEN2503 |
| 国際都市文化論Ⅱ | 2 | LXGEN2504 |
| 国際都市社会論Ⅰ | 2 | LXGEN2505 |
| 国際都市社会論Ⅱ | 2 | LXGEN2506 |

インターナショナルスクールは、「都市文化研究センター」(UCRC)に附属する教育組織として、2003年度に設置された。活動の目的は、都市文化研究センター研究員や院生・学生を対象に世界レベルで国際的な研究教育を推進することにある。2005年度からは、特に若手研究員の国際発信能力の育成に力を入れ、2007年度には、さらに発展した「国際発信力育成インターナショナルスクール」として、文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム」(GP)に採択された。GP終了後もその理念と事業は継承され、大学が目指すグローバル人材育成とも連動して、授業科目については将来国際社会での活躍が期待される全学部・研究科の大学院生・学部生にも履修の機会を広げてきている。

Ⅱ 後期博士課程

1. 学位

大阪市立大学院文学研究科後期博士課程の大学院生は、3年以上在学し、当該専門分野の「論文指導」科目12単位以上を修得した上、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。

なお、文化構想学専攻については、上記の規定に加えて、当該専門分野の「分野専門科目」4単位以上を修得しなければならない(ただし当該専門分野以外の分野専門科目を2単位まで含めることができる)。

これを満たした者は、「大阪市立大学博士(文学)」の学位が授与される。

2. 後期博士課程を修了するための単位数

「論文指導」科目は半年(1セメスター)30時間の指導と研究・執筆活動をもって2単位とし、在学期間を通じて恒常的に履修するものとする。

科目の履修にあたっては、各専門分野のガイダンスでの指導に従うこと。

このほか研究科共通科目としてインターナショナルスクール授業科目がある(前期博士課程の項目を参照のこと)。後期博士課程の大学院生は修了要件単位にはならないが、英語による発信能力育成を趣旨とするものであるため、積極的に履修することが望まれる。

* 科目ナンバー

2016年度より、大阪市立大学で開講されているすべての科目に9桁のアルファベットおよび数字によるナンバーづけ(ナンバリング)が行われている。文学研究科の後期博士課程の科目に関するナンバリングの基本的な考え方は以下の通りである。なお、学部の科目や教職科目等については学部の『科目履修の手引き』などを参照のこと。

- ①最初のアルファベット2桁、3～5桁目のアルファベットについては前期博士課程と同様。
- ②6桁目(学修マップ上の位置づけ)は4、7桁目(標準履修年次の最小学年)は7とする。
- ③8～9桁目は科目特定番号として用いる。

3. 博士論文

(1) 課程博士論文の準備

課程博士論文の準備段階で、「論文指導」4単位修得後(通常2年次)の前期セメスター開始時「博士論文作成計画書」を論文指導教授に提出しなければならない。その題目及び指導教授の一覧は後期博士課程教授会で報告される。

(2) 課程博士論文の要件

課程博士論文は、後期博士課程修了時に学位授与申請のために提出する論文である。申請にあたっては、次の基本要件を満たしていなければならない。

- ①課程博士論文は、当該専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すものでなければならない。
- ②(論文提出のための条件)
 - (a) 課程博士論文の準備として、2年次の前期セメスター開始時に「博士論文作成計画書」を論文指導教授に提出しなければならない。その題目及び指導教授の一覧は後期博士課程教授会で報告される。
 - (b) 課程博士論文を提出するためには、既発表論文2篇(うち1篇は査読付き学会誌・専門誌に掲載されたもの)以上の研究実績を有しなければならない。
- ③(評価基準) 課程博士論文は以下の各項目について、当該専門分野における高度な水準を

満たさなければならない。

- (a) 研究課題（テーマ）の学術的意義…明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。
 - (b) 研究課題の的確性…研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。
 - (c) 研究方法の妥当性…研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。
 - (d) 先行研究との関連…当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。
 - (e) 資料利用の適切性…論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切に用いられていること。
 - (f) 論旨の一貫性…論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。
 - (g) 学術論文としての体裁…表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。
 - (h) 研究倫理の遵守…研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。
 - (i) 当該専門分野への学問的貢献…当該専門分野における研究の発展に貢献しうるものであること。
- ④（論文の体裁）課程博士論文は、400字詰原稿用紙に換算して、300枚から500枚程度の分量がなければならない。
 - ⑤（その他）課程博士論文執筆にあたっては、論文指導教授より十分な指導を受けなければならない。なお各専修において、それぞれの研究分野の学問状況に応じ、上記基本要件以外に追加的な条件を定めることがある。

（3）課程博士論文の提出期限

第3年次以降に課程博士論文を提出しようとする者は、毎年、11月1日より12月10日までの間に学生サポートセンター文学研究科教務担当に提出しなければならない。ただし12月10日が土・日あるいは祝日にあたる場合は、次の平日を締め切り日とする。なお、上記期間に提出できなかった者については、9月修了を希望する場合、翌年の5月1日より6月10日の間に提出することができる。ただし6月10日が土・日あるいは祝日にあたる場合は、次の平日を締め切り日とする。その際、仮製本した論文3部のほか、申請書類一式を、学生サポートセンター文学研究科教務担当に提出すること（申請書類の様式は学生サポートセンター文学研究科教務担当で受領すること）。

（4）単位修得退学

課程博士論文を提出せず単位修得退学しようとする学生は、退学時に100枚程度の「博士論文準備報告書」を論文指導教授に提出することとする。その題目及び指導教授の一覧は、後期博士課程教授会で報告される。ただし、「博士論文準備報告書」をレフェリー付き学会誌・専門誌掲載の論文で代替することができる。

通常の退学とは異なり、指導教員と十分に相談の上、指導教員から「単位修得退学報告書」が提出されれば、教室代表と学生担当委員との面談は省略できる。

4. 教員免許

教育職員一種免許状（中学・高校）をもっていない大学院後期博士課程学生は、専修免許状取得の前提となる一種免許状取得のための不足単位を、学部科目の履修により補なうことで、教育職員一種免許状を取得することができる。学部科目の履修の許可については、本冊子の「I前期博士課程」の「6.教員免許」を参照すること。

また、前期博士課程で開講している教員免許に係る科目を履修し、単位修得することにより教育職員専修免許状を取得することができる。ただし、資格取得のために前期博士課程科目を

履修する場合、学部科目の2倍と計算するため、教職課程と博物館学芸員課程等をあわせて各学期8科目以内で履修できる学部科目が少なくなる。たとえば、前期博士課程2科目（学部科目4科目分に相当）を履修する場合、学部科目は4科目以内になる。詳しくは、本冊子の「Ⅰ 前期博士課程」の「6.教員免許」を参照すること。

5. 学芸員資格

大学院生は、学部で開講している（博物館に関する科目）を履修し、単位修得することにより、博物館学芸員の資格を取得することができる。詳しくは、学部の「履修の手引き」および本冊子の「Ⅰ 前期博士課程」の「7.学芸員資格」を参照すること。

ただし、資格取得のために前期博士課程科目を履修する場合、学部科目の2倍と計算するため、他の資格取得のために履修する科目と博物館学芸員課程等に必要科目をあわせて各学期8科目以内で履修できる学部科目が少なくなる。たとえば、前期博士課程2科目（学部科目4科目分に相当）を履修する場合、学部科目は4科目以内になる。

6. 専門社会調査士および社会調査士申請資格

人間行動学専攻の大学院後期博士課程学生で、すでに社会調査士の資格を有する者は、前期博士課程開講の専門社会調査士関連科目を履修し、単位修得することによって、専門社会調査士申請資格を取得することができる。

詳しくは、本冊子の「Ⅰ 前期博士課程」の「8.専門社会調査士および社会調査士申請資格」を参照すること。

ただし、資格取得のために前期博士課程科目を履修する場合、学部科目の2倍と計算するため、他の資格取得のために履修する科目と社会調査士申請資格に必要な科目をあわせて各学期8科目以内で履修できる学部科目が少なくなる。たとえば、前期博士課程2科目（学部科目4科目分に相当）を履修する場合、学部科目は4科目以内になる。

7. 大学院共通教育科目について

全学に共通する大学院科目として「研究倫理」ほかの大学院共通教育科目が開講されている。後期博士課程を修了するための単位数には含まないが、修得単位として認定する。本科目については、大学院共通教育科目シラバスを参照のこと（OCU UNIPAにも掲載される）。

大学院共通教育科目の履修登録については、別途周知する。

8. 科目履修の手続き

成績開示および履修登録スケジュールは、掲示板およびOCU UNIPAへの掲載により周知する。

（1）OCU UNIPAによる履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで（4月上旬・9月中旬）にOCU UNIPAによって、履修する科目の登録をしなければならない。

（2）履修申請の確認と確定

履修登録締切後の履修登録状況確認日に、OCU UNIPAの「学生時間割表」画面より登録内容を点検し、正しく登録されているか確認すること。この確認を怠り、希望する科目履修が正確に登録されていない場合は、その科目の履修を認めない。特に、エラーが出ている科目については放置することなく、必ずエラー内容を確認し、履修登録確認・修正期間に修正すること。

(3) 休学した学生が復学した場合

休学した学生が履修登録期間最終日を過ぎて復学した場合には、履修登録確認・修正期間中にOCU UNIPAより履修登録をすること。なお、履修登録確認・修正期間を過ぎて復学した場合には、すみやかに学生サポートセンター文学研究科教務担当へ申し出ること。ただし、復学の時期によっては履修登録が認められない場合がある。

(4) 成績確認

前学期に履修・受験した科目の成績については、OCU UNIPAの「成績照会」画面によって確認できる。

※「成績照会」画面には前回の開講期までの成績が反映されており、印刷も可能である。

9. 修業年限と在学年限など

(1) 修業年限と在学年限

必要な単位数を修得し修了するまでの修業年限は3年である。修了に必要な単位数をそろえることができない場合、留年となる。またその場合、修了までの在学年限は6年である。

(2) 休学

病気その他やむをえない理由で2ヶ月以上学修できない場合は、休学することができる。一度に願い出ることのできる休学期間は原則最大で6ヶ月である。

休学を願い出る時は、学生サポートセンター文学研究科教務担当に申し出て、その指示を受けること。休学は本人と指導教員および学生担当委員との面談、「休学願」の提出により教授会で審議され決定される。

なお、「休学願」の提出は、緊急の場合を除いて、前期は3月末日、後期は9月末日までに行わなければならない。

学期開始後に提出した場合は、その学期の授業料を納入しなければならない。

「休学願」は授業料が未納の場合は受理されない。

休学を延長する場合も、上記と同じ手続きをおこなったうえで、3月末日または9月末日までに改めて「休学願」を提出しなければならない。休学期間は、通算して3年を超えることができない。休学期間は在学年数に参入しない。

また、当該学年には、休学期間を除き12ヶ月以上在籍しなければならない。学年進行の時期は、4月とする。

(3) 復学

休学期間中にその事由が消滅したときには、願い出て復学することができる。復学後の履修については、学生サポートセンター文学研究科教務担当の指示を受けること。

休学期間終了までに申し出がない限り、終了翌日に復学するものとみなす。したがって、復学した学期の授業料を納入しなければならない。

(4) 退学

退学を希望する場合は、学生サポートセンター文学研究科教務担当に申し出て、その指示を受けること。退学は本人と指導教員および学生担当委員との面談、「退学願」の提出により、教授会で審議され決定される。

なお、「退学願」の提出は、緊急の場合を除いて、前期をもって退学する場合は9月末日、後期をもって退学する場合は3月末日までに行わなければならない。

学期開始後に提出した場合は、その学期の授業料を納入しなければならない。「退学願」は授業料未納の場合は受理されない。

課程博士論文を提出せず、単位修得退学する学生については、本冊子の「3.博士論文(4)単位修得退学」を参照のこと。退学届は、授業料が未納の場合は受理されない。

(5) 除籍

年度内に授業料を納入しなかった場合、あるいは在学年限内に必要な単位を修得できない場合で「退学願」の提出のないときは除籍となる。

(6) 再入学

退学または除籍となった者が、再入学を願い出たときには、教授会の議を経て許可することがある。ただし、再入学の願い出は、退学または除籍の日から3年以内に限る。ただし、再入学には、授業料、入学料が必要となり、許可された場合は、退学時、除籍時の在学年限を引き継ぐ。

(7) 長期履修制度

修業年限を延長して長期履修を希望する大学院学生は、所定の条件を満たした場合、認められることがある。これについては、「大阪市立大学長期履修制度規程」(41～42頁)を参照のこと。長期履修学生の履修登録の方法は、別途周知する。長期履修学生には、原則として教職課程や博物館学芸員課程等の科目の履修を認めない。履修を希望する場合、指導教員と相談のうえ、教授会での承認を得ること。長期履修許可後に履修期間を延長することは認めない(再申請不可)。履修期間の短縮を希望する場合は、事前に学生サポートセンター文学研究科教務担当に相談すること。

10. 奨学金、奨励金等

奨学金については、(1)日本学生支援機構奨学金、(2)本学独自の奨学金、(3)公的団体や民間団体の奨学金(各種奨学金)がある。詳細については、大阪市立大学のホームページ「経済的支援制度」 https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/education/financial_aidを参照のこと。

※「高等教育の修学支援制度」は、学部学生のみ対象となる。

11. 授業科目表

哲学歴史学専攻

| 専門分野 | 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 備考 | 科目ナンバー |
|-------|--------|----------|-----|--------|-----------|
| 哲 学 | 論文指導科目 | 哲学論文指導 | 12 | | LAPHL4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 日 本 史 | 論文指導科目 | 日本史学論文指導 | 12 | | LAJPH4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 東 洋 史 | 論文指導科目 | 東洋史学論文指導 | 12 | | LAWHE4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 西 洋 史 | 論文指導科目 | 西洋史学論文指導 | 12 | | LAWHW4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |

人間行動学専攻

| 専門分野 | 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 備考 | 科目ナンバー |
|-------|--------|---------|-----|--------|-----------|
| 社 会 学 | 論文指導科目 | 社会学論文指導 | 12 | | LBSOC4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 心 理 学 | 論文指導科目 | 心理学論文指導 | 12 | | LBPSY4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 教 育 学 | 論文指導科目 | 教育学論文指導 | 12 | | LBEDU4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 地 理 学 | 論文指導科目 | 地理学論文指導 | 12 | | LBGEO4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |

言語文化学専攻

| 専門分野 | 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 備考 | 科目ナンバー |
|---------------------|--------|-------------------------|-----|--------|-----------|
| 国 語 国 文 学 | 論文指導科目 | 国語国文学論文指導 | 12 | | LCJPN4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 中国語中国文学 | 論文指導科目 | 中国語中国文学論文指導 | 12 | | LCCHN4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 英 語 英 米 文 学 | 論文指導科目 | 英語英米文学論文指導 | 12 | | LCENG4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| ドイツ語フランス語圏 言語文化学 | 論文指導科目 | ドイツ語フランス語圏 言語文化学論文指導 | 12 | | LCDFX4701 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 言 語 応 用 学 | 論文指導科目 | 言語応用学論文指導 | 12 | | LCLNG4702 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |

文化構想学専攻

| 専門分野 | 区分 | 授業科目名 | 単位数 | 備考 | 科目ナンバー |
|--------|--------|-----------------------------|-----|--------|-----------|
| 表現文化学 | 論文指導科目 | 表現文化学論文指導 | 12 | | LEART4701 |
| | 分野専門科目 | 表現文化学特殊研究a (文芸表象論) | 2 | | LEART4702 |
| | | 表現文化学特殊研究b (文化戦略としての説話) | 2 | | LEART4703 |
| | | 表現文化学特殊研究c (ポピュラー文化) | 2 | | LEART4704 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| アジア文化学 | 論文指導科目 | アジア文化学論文指導 | 12 | | LEASA4701 |
| | 分野専門科目 | アジア文化学特殊研究a (地域文化と演劇) | 2 | | LEASA4702 |
| | | アジア文化学特殊研究b (文化の商品化) | 2 | | LEASA4703 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |
| 文化資源学 | 論文指導科目 | 文化資源学論文指導 | 12 | | LECRS4701 |
| | 分野専門科目 | 文化資源学特殊研究a (演劇と社会) | 2 | | LECRS4702 |
| | | 文化資源学特殊研究b (芸術文化資源と「評価」) | 2 | | LECRS4703 |
| | 博士論文 | 博士論文 | 0 | 修了年次科目 | |

履修方法及び課程修了要件

- ①論文指導科目は、在学期間を通じて恒常的に履修し、每期2単位ずつ修得すること。
- ②文化構想学専攻については、主とする分野の分野専門科目を4単位以上修得すること。
(主とする分野以外の文化構想学専攻他分野専門科目を2単位まで含めることができる。)
- ③必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び試験に合格すること。

Appendix

大阪市立大学大学院文学研究科履修規程

制 定 平成 13 年 2 月 16 日
最近改正 令和 2 年 11 月 27 日

(学則その他との関係)

第 1 条 大阪市立大学大学院文学研究科の学生の履修に関しては、大阪市立大学大学院学則および大阪市立大学学位規程によるほか、この規程の定めるところによる。

(前期博士課程の履修方法)

第 2 条 修士（文学）の学位を得ようとする者は、文学研究科前期博士規程に 2 年以上在学し、各専攻に属する授業科目（専攻共通科目、分野専門科目、当該専門分野の研究指導科目）中から、専攻毎に、次表により 30 単位以上を修得したうえ、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。ただし、在学年限は 4 年を超えることはできない。

| 科目群 専 攻 | 専攻共通科目 ・ 分野専門科目 | 研究指導科目 |
|------------|---|--------|
| 哲 学 歴 史 学 | 26 単位以上 ・ 専攻共通科目 2 単位以上を含むこと。 ・ 当該専門分野の総合研究 4 単位必修。 | 4 単位 |
| 人 間 行 動 学 | 26 単位以上 ・ 専攻共通科目 4 単位以上を含むこと。 ・ 当該専門分野の総合研究 4 単位必修。 | 4 単位 |
| 言 語 文 化 学 | 26 単位以上 ・ 専攻共通科目 4 単位以上を含むこと。 ・ 当該専門分野の総合研究 4 単位必修。 | 4 単位 |
| 文 化 構 想 学 | 26 単位以上 ・ 専攻共通科目 2 単位以上を含むこと。 当該専門分野の総合研究 4 単位必修。 | 4 単位 |

- 2 各専攻の授業科目および単位数については、別に定める。
- 3 授業科目は原則として半年（1 セメスター）14 週の講義または演習指導をもって 2 単位とする。研究指導科目は修士論文作成の指導を内容とし、2 年次以上に履修するものとする。また、研究指導Ⅱは学位論文の合格をもって 2 単位を修得したものとする。
- 4 各専攻所定の共通科目、分野専門科目、当該専門分野の研究指導科目のほか、他専攻の分野専門科目を 4 単位を超えない範囲で履修することができる。
- 5 研究科教授会は、教育上有益と認めるときは、学生が他の研究科、国内の他の大学の大学院ならびに外国の大学の大学院の授業科目を履修することを認めることができる。
- 6 前項の規程により修得した単位数については 10 単位を超えない範囲で、これを本研究科当該専攻において修得したものとみなし課程修了に要する単位に含めることができる。

(後期博士課程の履修方法)

第 3 条 博士（文学）の学位を得ようとする者は、文学研究科後期博士課程に 3 年以上在学（休学期間を除き各学年に 12 か月以上在籍）し、当該専門分野の論文指導科目 12 単位以上を修得したうえ、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。

ただし、在学年限は6年を超えることはできない。

- 2 各専攻の授業科目および単位数については、別に定める。
- 3 論文指導科目は原則として半年（1 Semester）30時間の指導と研究・執筆活動をもって2単位とし、在学期間を通じて恒常的に履修するものとする。
- 4 前項の規定にかかわらず、長期履修の適用を受けた者に関しては、論文指導科目は半年（1 Semester）30時間の指導と研究・執筆活動をもって2単位とすることをもとに、週当たり指導時間ならびにそれに相当する単位数を学生ごとに設定の上、在学期間を通じて恒常的に履修するものとする。
- 5 文化構想学専攻については、論文指導科目12単位以上に加え、主とする分野の分野専門科目を4単位以上、もしくは、主とする分野の専門科目を2単位以上と主とする分野以外の文化構想学専攻他分野専門科目を2単位以上の計4単位以上修得しなければならない。

（教職免許）

第4条 教育職員免許法第2条に定める教育職員の免許状を修得しようとする者は、教育職員免許法に基づき、大学が提供する「教職課程に関する科目」の必要単位を修得しなければならない。

- 2 「教職課程に関する科目」の履修方法は、別に『文学研究科科目履修の手引き』等に定める。

附 則

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、令和2年4月1日以降に入学する学生に適用する。令和2年3月31日以前入学の学生については、この規程を適用せず、改正以前の規程および文学研究科の定めるところによる。

附 則

- 1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 第3条第1項については、令和3年4月1日以前入学の学生にも適用する。

・大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規

制 定 昭和 36 年 2 月 24 日

最近改正 令和 3 年 2 月 19 日

(学則その他との関係)

第 1 条 大阪市立大学修士（文学）および博士（文学）の学位の授与に関しては、大阪市立大学大学院学則、大阪市立大学学位規程（以下、学位規程という）および大阪市立大学大学院文学研究科履修規程によるほか、この内規の定めるところによる。

(学位規程第 4 条第 2 項における単位修得見込証明書の交付)

第 2 条 学位規程第 4 条第 2 項における後期博士課程の単位修得見込証明書は、文学研究科（後期博士課程）に 2 年 6 ヶ月以上在学し、すでに所定の科目を 10 単位以上修得し、かつその年度末までに合計 12 単位以上修得し得る見込のある者に対して、文学研究科後期博士課程教授会（以下、後期博士課程教授会という）の審議を経て、その意見を聴いたうえで研究科長が交付する。

(修士論文の提出時期)

第 3 条 修士論文は、文学研究科（前期博士課程〔修士課程〕—以下、修士課程という—）在学中に、その課程を修了しようとする年度の 1 月 10 日までに提出しなければならない。ただし、10 日が土、日あるいは祝日にあたるときは、次の平日を締切日とする。

(課程修了予定者の博士論文提出の時期)

第 4 条 学位規程第 4 条第 2 項による博士論文の提出時期は、次のとおりとする。ただし、10 日が土、日あるいは祝日にあたるときは、次の平日を締切日とする。

3 月修了：毎年 11 月 1 日より 12 月 10 日までの間

9 月修了：毎年 5 月 1 日より 6 月 10 日の間

(学位規程第 3 条第 2 項による学位申請の受理)

第 5 条 学位規程第 3 条第 2 項により学位授与の申請があったときは、後期博士課程教授会は、これを授与するか否かについて審議する。

2 前項の審議のために、後期博士課程教授会を開き、学位申請受理調査委員会（以下、調査委員会という）を設ける。調査委員会は、後期博士課程教授会が選出した 3 名の調査委員をもって組織し、前項の審査に必要な事項を調査して、後期博士課程教授会に報告するものとする。ただし、学位授与を申請する者が別に定める要件を満たす場合は、調査委員会の設置を省略することができる。

3 文学研究科長は、後期博士課程教授会構成員の 3 分の 2 以上が出席し、その 3 分の 2 以上が同意した審議結果を学長に答申する。

(審査委員)

第6条 修士論文の審査委員は3名(うち1名は主査)とし、当該専攻の科目担当教員のうちから選出するものとする。審査委員は各専攻の提案に基づき、研究科教授会において審議の上、選出する。

2 博士論文の審査委員は3名(うち1名は主査)とし、当該専門分野(専修)の後期博士課程科目担当教授、または関連科目の教授のうちから選出するものとする。審査委員は、後期博士課程教授会において審議の上、選出する。

(学位申請者に対する学力確認のための試験の免除)

第7条 文学研究科後期博士課程において所定の年限以上在籍し、所定の単位を修得して退学したもので、退学後6年以内に学位規程第3条第2項により学位の授与を申請した者については、学位規程第8条第2項の学力確認のための試験を免除する。

2 文学研究科後期博士課程において所定の単位を修得して退学し、6年以上を経た者については、前項の試験の一部または全部を免除することができる。

3 本学の他の研究科または他大学の後期博士課程において所定の単位を修得した者、本学の他の研究科または他大学の修士課程を修了した者、および本学他学部または他大学の旧制学士試験に合格した者については、業績その他によりその学力を確認し得る場合、学位規程第8条第2項の試験の一部または全部を免除することができる。

(審査結果の報告)

第8条 修士論文の審査結果について、審査委員は大阪市立大学修士(文学)学位論文審査要旨により、学位授与に値するか否かの意見を添えて、研究科教授会に報告するものとする。

2 博士論文の審査結果について、審査委員は大阪市立大学博士(文学)の学位授与に値するか否かの決定を添えて、後期博士課程教授会に報告するものとする。

付 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

この内規は、平成27年4月17日から施行する。

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

この内規は、令和3年4月1日から施行する。

大阪市立大学大学院文学研究科長期履修学生規程

制 定 平成 22 年 1 月 22 日
最近改定 平成 27 年 2 月 23 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は「大阪市立大学長期履修規程」に基づき、文学研究科前期博士課程及び後期博士課程において、長期履修学生制度を適用するに関し、必要な事項を定める。

(資格)

第 2 条 長期履修を申請できる者は、前期博士課程及び後期博士課程在学者及び入学予定者で次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 職業を有しており、履修、研究の時間が制限される事情にある者（正規雇用者に限らず、主として当該収入により生計を維持している者）
- (2) 育児や介護への従事などの相当な理由により、履修、研究の時間が制限される事情にある者
- (3) その他、やむを得ない事情により、履修、研究の時間が制限されると研究科教授会で認められた者

2 定められた修業年限の最終年次にある者は申請できない。

(申請)

第 3 条 長期履修を希望する者は、指導教員又は指導予定教員の同意を得て、別に定める期日までに、次の書類を添えて申請するものとする。

- (1) 長期履修申請書（様式 1）
- (2) 長期履修期間にわたる履修・研究計画書（様式 3）
- (3) 長期履修が必要であることを証明する書類
- (4) 長期履修に関する指導（予定）教員の同意書（様式 4）

(許可)

第 4 条 前条の申請があったときは、研究科教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえでこれを許可する。ただし、教務委員会の審議を経て原案を作成し、研究科教授会に上程するものとする。

(履修期間)

第 5 条 履修期間は 1 年を単位とし、前期博士課程は 3 年ないし 4 年、後期博士課程は 4 年から 6 年のいずれかとする。

- 2 認められた履修期間を延長することはできない。
- 3 休学期間は履修期間に参入しない。
- 4 長期履修が認められた者についても、大阪市立大学大学院学則第 2 1 条に定める在学年限は延長しない。在学年限内に修了することができない場合は除籍の対象となる。

(履修期間の短縮)

第6条 長期履修を認められた者が当該履修期間の短縮を希望する場合は、別に定める期日までに、長期履修期間短縮申請書(様式2)を提出するものとする。許可手続きについては第4条による。

(許可の取消し)

第7条 長期履修を認められた者が、長期履修に関し虚偽の申請をしたことが判明したとき、その他長期履修を行わせることが適当でない認められたときは、研究科教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで長期履修の許可を取り消すことができる。

(雑則)

第8条 その他必要な事項は研究科教授会の審議を経て、その意見を聴いて研究科長が定める。

付則

この規程は平成22年4月1日から施行する。

この規定は平成27年4月1日から施行する。